

「魔の時間帯 夕方5～7時」

240925

日が落ちる前後の夕暮れどき(午後5時から午後7時まで)は、ドライバーにとっても歩行者にとっても周りが確認しづらくなるため、1日の中でも交通事故が多発する「**魔の時間**」と言われています。これからの季節は日没時間が早まるため、より注意が必要です。

愛知県警が、午後5時から午後7時の“魔の時間”に起きた事故での死者数と重傷者数を過去5年でまとめたところ、9月から急激に増えていることがわかります

運転者にとって特に危険なのは、車同士がすれ違うタイミング。対向車と自分の車が照らすライトの光が重なることで、歩行者が見えなくなってしまう「**蒸発現象**」です。歩行者を見落とし、さらに車の前に人が出てきてしまっ歩行者をはねてしまう事故が非常に多い時間帯。ドライバーとしては防ぎようがない現象なので、対向車とすれ違う時に安全が確認できないのであれば、アクセルを踏まずにブレーキをかまえていつでも止まれるような対策をとる必要があると言われています。逆に言えば、歩行者にとっては車と車がすれ違う時には、「自分は見えていない」という意識で行動することが大切になります。また、普段使うショッピングセンターなどの**立体駐車場は“魔の時間”の暗さとよく似ていて、とても見えにくい状態**なので、十分に注意する必要があるそうです。

では、日没も早くなり、暗い時間帯が増えていくこれからの時期。事故を防ぐためにはどうすればいいのでしょうか。運転者も歩行者も、どちらも見えづらく、さらに、歩行者や自転車の場合安全確認がおろそかになって事故になりがちです。**暗い時は、白いものや黄色いものを身に着ける、昼間に明るいものも夜は見えづらいので反射材でドライバーにアピールするのが必要**だと言われています。塾や習い事で夕方以降に出掛けることも多いと思いますが、自分にできる対策をしっかりと、命を守り、安全に過ごすことを願っています。

最後に、**ヘルメットの着用(あご紐チェック)**と、**自転車の無灯火(ライトを点けずない)走行によって被害者**になったり、歩行者に対して**加害者**になったりすることがないように十分に気を付けてください。



内閣府